



日本文化の なかの動物

令和6年度
県立広島大学・広島県立図書館・広島県立文書館連携公開講座



人類はその歴史のなかで、さまざまな動物との関係を深めてきました。あるときは生活や労働の伴侶として、またあるときは食糧や手工業の材料などとして、動物たちを利用しています。この講座では、日本列島において人々がどのように動物と関係を結んできたのかを、文学作品や発掘調査の成果から探ります。

●講座日時●

7月12日(金)・19日(金)・26日(金) 10:15～12:00

日本の歴史や文化に関心をもつ方へ (受講料無料)

●会場●

広島県立文書館研修・会議室 (※対面・定員30名)
(広島市中区千田町3丁目7-47 広島県情報プラザ2階)

申込締切
6月28日(金)

●講師● 県立広島大学 地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース

第1回 (7/12) 西本寮子 教授 第3回 (7/26) 鈴木康之 教授

第2回 (7/19) 目黒将史 准教授

主催：県立広島大学・広島県立図書館・広島県立文書館

【問合せ先】県立広島大学地域連携センター

TEL.082-251-9534 MAIL kouza@pu-hiroshima.ac.jp 〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71

講座のテーマ・内容

第1回：『源氏物語』の「猫」、『枕草子』の「犬」と「猫」

— ペットが招いた大騒動 —

脅かされて驚いた猫が騒動を起こす—よくある話ですが、『源氏物語』と『枕草子』にも猫が登場する場面があります。同じ時代を生きた紫式部と清少納言が取り上げた愛玩動物としての「猫」は、当時どのように扱われていたのでしょうか。「猫」に焦点をあて、周辺の文学作品や古記録から、王朝の人びとと動物の関わりについて考えてみます。

第2回：古典文芸に描かれる動物たち

前近代の物語には、さまざまな動物たちが描かれています。まさに動物は私たち人間の営みのすぐ傍に居る存在だったわけですが、とくに『源氏物語』(室町時代の物語草子)や『十二支と狸(野生の動物たち)との合戦』(室町時代の物語草子)など、動物を主人公にした物語草子がたくさん編まれています。本講座では古典文芸に描かれた動物の物語を読み、人々に親しまれた(物語化しやすかった)動物の様相をみていきます。

第3回：考古学が明らかにした日本列島の犬食文化

前近代の日本列島では、仏教の教えから四つ足の獣を食べることが忌避されてきたと考えられていましたが、1980年代以降の考古学的な調査研究によって、中世から近世にかけて、犬が重要な食糧資源とされていた事実が明らかになってきました。発掘調査の成果から、日本列島における犬食文化の実態を探ります。

※各講座の前に、図書館または文書館の利用ガイダンス(10:15~10:30)を実施いたします。

- ・第1回(7/12) 図書館利用ガイダンス
- ・第2回(7/19) 文書館利用ガイダンス
- ・第3回(7/26) 図書館利用ガイダンス

◆Web申込方法

次の大学ホームページのURLまたはQRコードからお申込みください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/koukai-kouza/kouza060712.html>

!! Web申込・受講にあたってのお願い !!

- (1) 申込締切日後に、メールで受講案内をお送りします。必ず、パソコンからのメール(@pu-hiroshima.ac.jp)を受信できるようにしておいてください。また、添付ファイル付きのメールを受信拒否しないようにしてください。
- (2) 受講案内を受け取ったら、受取確認のメールを返信してください。申込締切後に受講案内が届かない場合は、お問い合わせください。



◆往復はがき申込方法

往信面の裏に①郵便番号・②住所・③お名前(ふりがな)・④電話番号を、返信面の裏に受講される方の郵便番号・住所・氏名(〇〇様)をご記入の上、締切日までに以下の宛先にお送りください。受講の可否は、申込締切日以降に返信はがきでお知らせします。

〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71

県立広島大学地域連携センター「日本文化のなかの動物」係